

## 会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回吾妻学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和6年5月31日（金）開会9:30 閉会11:30		
開催場所		つくば市立吾妻小学校 会議室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	国府田 友康（会長）、木塚 友博（副会長） 木村 浩幸、阿部 将史、岡田 幸恵、久松 尚 宮田 征門、井上 波彦、野本 高志、長屋 和宏、 古田 雄一、小林 遼平 吾妻中学校：校長 菅谷 和美、教頭 諏訪 恵美 吾妻小学校：校長 園田 浩美、教頭 川島 真由美 教頭 野原 俊之、教務主任 秋元 良一 副教務主任 大塚 篤史		
	その他	塚本忠行（板橋第十小学校コミュニティ・スクール委員長）		
	事務局	学び推進課参事：小野尚文 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪恵理名 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏		
公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部非公開	傍聴者数	1人	
非公開の場合はその理由	つくば市情報公開条例第5条第1号（個人情報）に該当する情報が含まれるため			
議題	1 学校運営の基本方針について 2 学園の教育活動や地域の教育活動の紹介 3 熟議「児童・生徒が参画した学校運営（メイキング）に向けて」 4 その他			

会議録署名人		確定年月日	年	月	日
会議次第	1 開会 2 授業参観 3 任命書交付 4 教育長挨拶 5 つくば市のコミュニティ・スクールについて 6 会長・副会長の選出 7 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 学園の教育活動や地域の活動の紹介 (3) 熟議「児童・生徒が参画した学校運営（メイキング）に向けて」 (4) その他 8 閉会				

<p>&lt;審議内容&gt;</p> <p>1 開会</p> <p>事務局：ただ今から、令和6年度第1回 吾妻学園コミュニティ・スクール協議会を開会いたします。</p> <p>はじめに、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則第6条第2項では、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」としております。本日の出席委員数は19名であることから、会議が成立していることをお知らせいたします。</p> <p>会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として吾妻小学校PTA 副会長岡田幸恵さんをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>参加委員：お願いします。</p> <p>事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。</p> <p>2 授業参観</p> <p>3 任命書交付</p> <p>事務局：始めに「任命書」の交付をいたします。任命書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。学び推進課 参事 小野 尚文（おの なおふみ）が任命書の交付を行わせていただきます。阿部委員お越しく下さい。</p> <p>（「任命書」を阿部委員に交付）</p> <p>続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。</p> <p>吾妻学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として長屋 和宏委員を吾妻学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、委嘱させていただきたいと思います。（「委嘱状」を長屋委員に交付）</p>
--

ありがとうございました。長屋委員お席にお戻りください。

なお、この会議において皆様は、非常勤特別職として任命され任期は1年となり、任期は今年度末までとなります。また、守秘義務等の責務がございます。御留意ください。

皆様の任命書については、机の上でございますので御確認ください。委員の皆様のご自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただきます。御了承ください。

#### 4 教育長挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、学び推進課参事、小野が代読いたします。

皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。

本日はお忙しい中、第1回吾妻学園コミュニティ・スクール協議会に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては、当協議会の委員を快くお引き受け頂き、深くお礼申し上げます。

この吾妻学園では、令和4年度にモデル地域として市内で初めてコミュニティ・スクールの導入が始まり、昨年度は法に基づく協議会を設置することができました。コミュニティ・スクールの導入に御尽力された関係者の皆様、委員の皆様には、改めて深くお礼申し上げたいと思います。

さて、昨年度の協議会では、地域人材を活用した教育活動や、目指す児童・生徒像を具現化するための手立てなどについて、委員の皆様と協議していただきました。

また、キャリア教育の一環として、当学園の地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、地域住民による授業「ようこそ先輩！」を実施するなど、学校と地域の連携が着実に深まっていることを感じております。

こうした取組は、現在の学習指導要領が重視する「社会に開かれた教育課程」の理念に合致するものであり、今後も、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を通じて、未来の創り手となる子どもたちのために必要な資質・能力を育むことが求められています。そのため、委員の皆様には、これまで以上に活発な議論を行っていただくとともに、地域学校協働活動を軸とした学校と地域の連携を、より深めていただければと思います。そして、コミュニティ・スクールを充実させることにより、子どもたちの豊かな成長に加えて、将来的な地域の活性化にもつながっていくのではないかと思います。

委員の皆様におかれましては、つくば市の教育の更なる充実に向け、また、「一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標とする」教育大綱の理念の実現を目指し、今後とも、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

#### 5 つくば市のコミュニティ・スクールについて

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局(村上社会教育主事)：社会教育主事の村上と申します。よろしくお願

いたします。

わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配付されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人一人が幸せな人生を送ることを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走」というスローガンのもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと「地域とともに子どもを育む学校」と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。現在、学校では「いじめ、不登校」「教員の業務量増加」、地域では「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。

これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示しして

いる4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。

学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことからコミュニティ・スクール協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、コミュニティ・スクール協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるができるということです。これから始まるコミュニティ・スクール協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べるができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員を求めることなどです。

④の機能として、学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。

先ほども申し上げましたとおり、吾妻学園は今年度協議会という法に基づいた本格設置となります。

委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか、という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映させてほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪及びハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。この地域と学校との連携をスムーズに行うのが、地域学校協働活動推進員の役割です。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずですよ。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。これまでは先生が中心となってコーディネートしていたのが、今後は地域の方の力も借りて成立するようにしていきたいと考えています。新しいことをやらなくてもよいのです。運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきかについて地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる子どもたちのために御協力をよろしくお願いいたします。以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。（意見・質問無し）

## 6 会長・副会長の選出

事務局：協議の前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の第5条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」とあります。

事務局としては、昨年度、会長・副会長として活動していただいた国府田委員、木塚委員は引き続き協議会委員になっていただいているので、会長を国府田委員に、副会長を木塚委員にお願いしたいと提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

事務局：それでは、国府田会長、木塚副会長よろしくお願ひいたします。

この後は、国府田会長に進行をお願いします。

国府田会長：ここで、協議の前に板橋第十小学校でコミュニティ・スクールの委員を務めておられる塚本忠行さんに本日のコミュニティ・スクール協議会委御参加いただいておりますので、皆様にお伝えさせていただきます。

## 7 協議

### (1) 学校運営の基本方針について

国府田会長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの

説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、各学校より御説明をお願いします。

吾妻中学校 菅谷和美校長：吾妻学園グランドデザインの説明

吾妻学園の教育目標は、「未来に向かい、たくましく生きる児童生徒の育成」になります。その目標の実現に向けて吾妻学園では3つの力、「学び続ける力」「感じる力」「なしとげる力」を大切につけています。グランドデザインでは9年間の系統性と目指す児童生徒像が掲げられています。この力をつけることで、今後、変化が大きく、先行きが不透明といわれている新しい時代をたくましく生きる子どもたちを育成でき、つくば市が目指すみんなが幸せを実感できる学校を作ることができると考えています。

吾妻小学校 園田浩美校長：吾妻小学校グランドデザインの説明

学園長からも話があったように、3つの力を育成すべく、「思いやり」「学び続ける」そして「成し遂げる」、これらのキーワードを児童や先生方と作りしました。始業式、これが教室に貼られ、保護者と教職員と児童のキャッチフレーズになっています。学校づくりとコミュニティ・スクールは表裏一体だと考えています。吾妻の特性を生かし、持続可能な取組みをコミュニティとともに模索する、学校でも地域でも幸せを追求できる子どもを育もうと、グランドデザインを考えました。先ほど村上社会教育主事からもありましたように、コミュニティ・スクールでは、共通の目標が設定されます。地域と学校が同じ目標を共有するということが一番大事だと考えています。

これは、昨年度のグランドデザインです。今、児童はぴったり 750 人います。外国籍はぴったり 100 人います。この子どもたちが吾妻小でよかったな、心の故郷だなんて思えるように、日本の桜をイメージしました。「Accept」や「Zoom」など、先生と子どもたちが、いつでも言うことができます。

これが今年度のグランドデザインです。昨年、桜の花のグランドデザインを根づかせたいと、去年、塚本さんがコミュニティ・スクールの最後で示してくれたのがこの木でした。この木を元に、先生方がもっと「広げたい」「ズームアップでもっとパズルのように組み合わせたい」「もっと前に進みたい」という気持ちや子どもたちの思いが全部入って、このグランドデザインになりました。特に地域の部分は、「あづま祭り、ランタンアート」それから「ホタル池のルールメイキング」、「防災」の三つを柱として、職員も三つのプロジェクトに分かれています。機動的に、そして持続可能に取り組んでいきたいと考えています。

これは、授業参観の様子です。ホタル池ルールメイキングに協力してくださっている津田委員です。授業参観時には、子どもたちが津田委員の話を聞いて、「これはどうなっているのですか」「これはどうしてですか」とこれから調べたいことを山のように聞いていました。これは地域とともに持続可能な取組みになっていくと思った次第です。グランドデザインは、常に振り返りながら、取り組んでいきたいと思えます。

吾妻中学校 菅谷和美校長：吾妻中学校グランドデザインの説明

グランドデザインを御覧いただきながら説明します。吾妻中学校の教育目標は吾妻学園の目標に、地域に誇れる地域が誇る学校の実現、これを添えたものになります。先ほどの三つの力、これを達成するために今年度の組織目標では、「探究的な学び」「主体性」そして「作り上げる力」この三つを重点とし、組織目標を探究的な学びの実践による学び続ける力の育成、生徒が主体となり作り上げる活動による感じる力、成し遂げる力の育成としました。また5月22日の生徒総会で、生徒会のスローガンと、生徒たちがこんな学校をつくりたいという思いを發表しました。その思いを追記し、実は昨日、リニューアル版が完成したばかりです。今年度の生徒会のスローガンは「糸」です。これは「糸」は縦方向と横方向に交差されて綺麗な布を作る、縦の学年、横のクラスで絡み合い、1人1人が協力し合って過ごせる学校をつくりたい。また、糸の入った四つの漢字、「絆」学校全体の団結力を高める。「継」伝統を継ぐ。「繫」より良いものへ繫ぐ。「縁」人との関わりを大切にす。という意味が込められていまして、よりよい人間関係を築き、さらにステップアップできる学校にしたいという思いからなるものです。この組織目標と生徒たちの思いを達成できるように、今年度の教育活動の重点を、それぞれの分野ごとに示しております。ピアサポート活動であるとか、ルールメイキング、そして子どもたちが主体となる行事運営などを通して、先ほど申し上げた主体性などを育てていきたいなと思います。また、一番下にはコミュニティ・スクールの強みを生かした体験的な活動を進め、学校、保護者、地域が一体となって生徒たちを育てたいという思いを込めました。また、全体的にグランドデザインを青くしているのは校歌、「青き理性に」をイメージしたものになります。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

## (2) 学園の教育活動や地域の活動の紹介

井上波彦委員：吾妻まつりの説明

先程の中学校の資料の最後のところにも、あづま祭への参加について書いていただきました。あづま祭りという地元のお祭りを行っています。いろいろと学校にもお手伝いいただきしており、昔から中学生や小学生を呼んで準備から関わってもらっています。ふるさとの祭りとして、元々、何もないところに作ったものです。卒業した後もここに戻ってくるとか、この公園で何やったねとか、そういうことを創るということを目指して取り組んでいます。

話をしていると、学校が生徒を正式な形で参加させるというのはなかなか難しい、時間の問題であったり、生徒全員が関われたりするかみたいな話です。そういう中で、教育大綱に大人の矛盾性を打破するというか、大人も間違えるのだよねっていうようなことも良いことだとして書いてあるので、大人と子どもで、それは学校も教育委員会もそうだと思いますけど、少し冒険をしていただいて、そのためにあづま祭りを使っただけなら大変ありがたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

小林遼平委員：ランタンアートの説明

つくばまちなかデザインという会社に所属しています。会社の紹介の後に、ランタンアートの説明をさせていただきたいと思います。最初、1ページと書いてあるスライド、①と②、人と人を繋げる調整機能、街の中でことを繋げる実行機能って書いてあるところがあります。我々の会社、2021年の4月に立ち上げた会社でして、つくば市と地域の事業者で一緒になって立ち上げた会社です。元々、私もつくば市役所の職員で、この吾妻地区に住んでいました。大学は東京へ行ったのですが、やはり筑波は良いなと思って戻ってきて、市役所に入りましたが、このつくば駅周辺のまち作りを行うためにこの会社で現在、働いているところです。この会社自体が人と人を繋げるような調整機能と実際様々な活動をするプレイヤーの機能を有しています。下に写真があります。様々なことに取り組んでいてエキスポセンターの中のカフェも我々が運営させていただいております。あとは、現在、一時的に中止していますが、つくばアズメディア、楽天がロボット配送も少しやっていたと思いますが、それも我々が運営させていただきました。そして裏のページに行ってくださいまして、つくばセンタービルの中で、コーエンという施設を運営させていただいていて、ワーキングスペースとか、どちらかという働く人たちに対する施設ですけども、研究者と子どもを繋ぐようなイベントもたくさんやっています。写真の右上の子どもが顕微鏡をのぞいている写真を見ていただきたいです。ミドリムシの研究者を呼んできて、子どもと一緒にこのミドリムシのDNA解析とかを小学校3、4年生ぐらいと一緒にしました。そのときに、地域の人と一緒にやるのが大切だということに気が付きました。白衣を着た男の子、これは竹園高校の科学部の生徒です。子ども一人一人に竹園高校科学部の生徒を付けて顕微鏡の使い方とかも教えながら、全体は研究者が教えていく。そういうようなことをやっています。小学校3、4年生ですが、やはり皆さんすごく質問のレベルが高くて研究者が、「んっ」となるような感じでした。あとは地域のイベントを結構やっていて、去年はこの写真の左下にあるようなセンター広場にプール、ウォータースライダーとかプールを置きました。この辺では、プールがなくなっているところもあるので、子どもたちにプールの活動を体験させたりしました。

そんな中の一つとして、最後の4枚目のスライドのところでランタンアートが書いてあります。2009年からセンター広場を中心にエキスポセンターからデイズタウンの間を8000個ぐらいのランタンを灯すような取組をつくばセンター地区活性化協議会という我々つくばまちなかデザインが事務局を担っている団体で行っています。このつくばセンター地区活性化協議会という団体は、このつくば駅に立地している企業が50社集まっている組織でしてみんなでこのつくば駅周辺を賑やかにしていこう、綺麗にしていこうということでいろんな活動を行っています。それを我々が事務局として担い、活性化協議会でこのランタンアートという取り組みをしています。これは、昔からの小学校、中学校の皆様にも御協力をいただきながら取り組んでいます。特徴にも書いてあるように地域の企業と連携して運営しておりまして、当日の運営は、基本的にはつく

ば駅周辺の企業のボランティアが応じています。さらにこの作品については全て小・中学生に作っていただいて、特につくば駅周辺の竹園学園と吾妻学園につきましては、かなり積極的に関わっていただいております。

昨年は、吾妻小学校と吾妻中学校が連携してデザインを検討という欄があります。つくばセンタービルの少しくぼんでいる、噴水が出ているこの部分、毎年、学校にデザインを考えてもらっているのですけれども、昨年については、吾妻小学校と吾妻中学校の児童と生徒一緒になって考えていただきました。この写真にあるようにオンライン会議をして、デザインを考えていただいて、このような2023年はうさぎがモチーフとなりました。このような文字を書いて当日の設置も手伝ってもらうだとか、やはり、我々、地域と一緒にやった活動をやっていきなと思っております。なので、ぜひ吾妻学園も含めて地域のイベントにも皆さん一緒になって関わりながら、街を盛り上げていきなと思っております。

#### 宮田征門委員：おやじの会の説明

おやじの会は、2012年の東日本大震災の後に組織されたホスピタリティとなっています。吾妻小学校、中学校のPTAと連携をして、学校教育環境の整備ですとか、行事のサポート、そして、防災環境の観点から、防災の授業やイベントなどをサポートしております。特に、防災教育については力を入れて、吾妻学園防災手帳というものを作って児童生徒たち継続して協力したり、秋は、吾妻小学校防災キャンプを行って、保護者に巻き込んで、企画したりすることで、日頃からその災害というのを自分事として考えてもらえる活動を進める組織体です。最大の特徴は、現役保護者もちろん参加しているのですが、PTAのOB、OGがたくさん参加をしているということです。小学校、中学校のPTAを繋ぐという役割、中学校のPTAと地域を繋ぐ役割、を認識して活動しています。先日は吾妻中学校の草刈りをやらせていただいたのですが、清々しい天気の中、朝からみんなでワイワイ喋りながら体を動かして、心も体もリフレッシュできたということで、学校のためとか、子どもたちのためっていう理由で休みましたけど、自分たちがやりたいからやっているというような形、それが多分、緩く長く続けられている最大秘訣なんじゃないかなと思います。すごい技術とか、いろんな工具とか、スペシャルですごい人たちが吾妻のおやじの会には登録していますので、もし何か皆さん、お困りのことがあれば活用してください。

#### 長屋和宏委員：ようこそ先輩の説明

「ようこそ先輩」のことだけ紹介させていただきたいと思っております。昨年、学校で取り組んでいるキャリア学習について、尾見先生から、おやじの会や卒業生に協力してほしいというお話がありました。非常に面白いなと思ったので、メールをみんなに送りました。その方に、仕事はどんなものかとか、どんなことにやりがいを感じているのかとか、普段だったら言えないような自分の所属するところの良くないことなども語っていただくことで、子どもたちが仕事に

ついて考える機会を用意しました。

自分自身が感じたことについて話します。私自身、都市部の出身で、吾妻の子たちも似たような環境で育っていると思います。どのような種類の仕事に就職したいか、話を聞きたいか尋ねたときに、1次産業とか農業とか出てこないのです。大学で話をする機会があった時にも、やはり、1次産業についてはでませんでした。仕事について話す機会を作るとしたら、万遍なく行わなければいけないなということを考えました。アンケートに基づいて行い、子どもたちのニーズに応えたとは思いますが、広く仕事のことを伝えてあげるという観点に留意することが必要だと感じました。今年もそのような活動を行うのであれば、変えながら取り組みたいです。もう一つ、少し疑問に思ったことです。2人の話を聞けたのですが、さっき聞いた人の話と、こっちで聞いた人の話を直接比較しようと思ったときに、子どもからすると、比較しづらいし、質問するにしても比較するべき回答が返ってくるか分かりません。それならば、パネルディスカッション的に話をしてもらった方が効果的ではないかということをおもいました。もしできるのならば、そういったことも仕掛けていければいいなと思っております。

国府田会長：御説明ありがとうございました。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。委員の皆様にご協力をお願いいたします。令和6年度学園・各校のランドデザインを御承認いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：(拍手)

国府田会長：ありがとうございました。校長先生方におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

### (3) 熟議「児童・生徒が参画した学校運営（メイキング）に向けて」

国府田会長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを吾妻小学校の野原教頭先生をお願いしてよろしいでしょうか。

野原教頭：はい。よろしく申し上げます。

国府田会長：お引き受けくださりありがとうございます。では、野原教頭先生よろしく申し上げます。

野原教頭：熟議のテーマは「児童生徒が参画した学校運営（メイキング）に向けて」です。4つのグループに分けて行います。熟議の流れについて確認します。初めに、児童生徒が参画した学校運営（メイキング）に向けて、「児童・生徒」「地域」「学校」ができること、取り組むべきことなどを考え、付箋に意見をまとめます。続いて、付箋に書かれたことを紹介し合いながら、用紙に、付箋を貼り付けます。付箋を貼り終えたら、互いに考えを伝え合いながら、テーマについて考えを深めていきます。

時間になりましたら、各グループ、1分程度で発表し、考えを共有します。

(各グループでの熟議 25 分間)

野原教頭：熱心な協議ありがとうございました。それでは、Aグループから、発表をお願いいたします。

(※熟議の発表内容については、塚本忠行氏による「グラフィック・レコーディング」によって記録)



#### グループA

- ・自分たちのまちを活性化するための意見を吸い上げ、協議する場の設定
- ・将来の自分の姿を考えながら、学校、地域、自分の創造
- ・自分たちの手でより良い学校を創ろうとする風土の醸成

#### グループB

- ・コミュニティ・スクールへの児童・生徒の参加
- ・地域行事への参画（小・中学校、高校）
- ・児童生徒の意見、自主性を尊重した学校行事

#### グループC

- ・児童生徒によるコミュニティ・スクールへの参加
- ・ルールは自分たちの意見で変えることができるという意識付け
- ・子どもたちが大人に意見を提案できる機会の確保

#### グループD

- ・熟議内容のフィードバック
- ・ポジティブ思考で失敗を恐れず挑戦

野原教頭：貴重な御意見ありがとうございました。いただいた意見を学園で共有して、児童生徒が参画した学校メイキングにつなげていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

国府田会長：ありがとうございました。最後に委員の皆さんから何かありますでしょうか。

野原教頭：今後のコミュニティ・スクール協議会の予定です。第2回目は、令和6年11月18日(月)9時30分から吾妻小学校で行います。第3回目は、令和7年2月19日(水)9時30分から吾妻小学校で行います。

## 8 閉会

国府田会長：それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。

事務局：国府田会長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

また、お手元に「つくば市コミュニティ・スクール評価ガイドライン」を配布させていただいております。こちらは、市教育委員よりコミュニティ・スクールの運営にあたり念頭においていただきたいと示されたものです。チェック項目について御確認いただければと思います。提出を求めるものではございません。折々において御活用いただければと思います。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思っております。委員の皆様、よろしいでしょうか。

(委員、承認)

以上をもちまして、令和6年度第1回吾妻学園コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

# 令和6年度第1回吾妻学園コミュニティ・スクール協議会

日時：令和6年5月31日（金）

9：30～

場所：つくば市立吾妻小学校 会議室

## 次 第

- 1 開 会
- 2 授業参観
- 3 任命書交付
- 4 教育長挨拶
- 5 つくば市コミュニティ・スクールについて
- 6 会長・副会長の選出
- 7 議 事
  - (1) 学園・学校運営の基本方針について
    - ・各校のグランドデザインの説明
  - (2) 学園の教育活動や地域の活動の紹介
  - (3) 熟議 テーマ「児童・生徒が参画した学校運営（メイキング）に向けて」
  - (4) その他
    - ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について
- 8 閉 会

吾妻学園コミュニティ・スクール協議会委員

	氏名	関係学校名	区分	新任・再任区分 (通算年数)	備考
1	小峰 秀彦	吾妻中学校	(1)保護者	新	吾妻中学校 PTA 会長
2	木村 浩幸	吾妻中学校	(1)保護者	新	吾妻中学校 PTA 副会長
3	安藤 亮輔	吾妻中学校	(1)保護者	新	吾妻中学校 PTA 副会長
4	阿部 将史	吾妻小学校	(1)保護者	新	吾妻小学校 PTA 会長
5	上野 真美	吾妻小学校	(1)保護者	新	吾妻小学校 PTA 副会長
6	岡田 幸恵	吾妻小学校	(1)保護者	新	吾妻小学校 PTA 副会長
7	久松 尚	吾妻小学校	(2)地域住民	再(2)	主任児童委員
8	宮田 征門	吾妻中学校	(2)地域住民	新	吾妻おやじの会代表
9	井上 波彦	吾妻中学校	(2)地域住民	再(2)	吾妻まつり実行委員会代表
10	野本 高志	吾妻小学校	(2)地域住民	再(2)	学校評議員
11	吉田 麻子	吾妻中学校	(2)地域住民	再(2)	学校評議員
12	長屋 和宏	吾妻中学校	(3)地域学校協働活動推進員	再(2)	吾妻学園地域学校 Co
13	木塚 朝博	吾妻中学校	(4)学識経験者	再(2)	筑波大学
14	古田 雄一	吾妻小学校	(4)学識経験者	新	筑波大学
15	国府田 友康	吾妻小学校	(4)学識経験者	再(2)	吾妻中学校元校長 保護司
16	菅谷 和美	吾妻中学校	(5)学校長	新	吾妻中学校校長
17	鬮田 浩美	吾妻小学校	(5)学校長	再(2)	吾妻小学校校長
18	諏訪 恵美	吾妻中学校	(6)教職員	再(2)	吾妻中学校教頭
19	川島 真由美	吾妻小学校	(6)教職員	再(2)	吾妻小学校教頭
20	野原 俊之	吾妻小学校	(6)教職員	新	吾妻小学校教頭
21	中田 匡紀	吾妻中学校	(6)教職員	再(2)	吾妻中学校教務主任
22	秋元 良一	吾妻小学校	(6)教職員	新	吾妻小学校教務主任
23	横山 英子	吾妻中学校	(6)教職員	新	吾妻中学校副教務主任
24	大塚 篤史	吾妻小学校	(6)教職員	新	吾妻小学校副教務主任
25	小林 遼平	吾妻中学校	(8)教育委員会が適当と認めたもの	新	つくばまちなかデザイン株式会社専務取締役

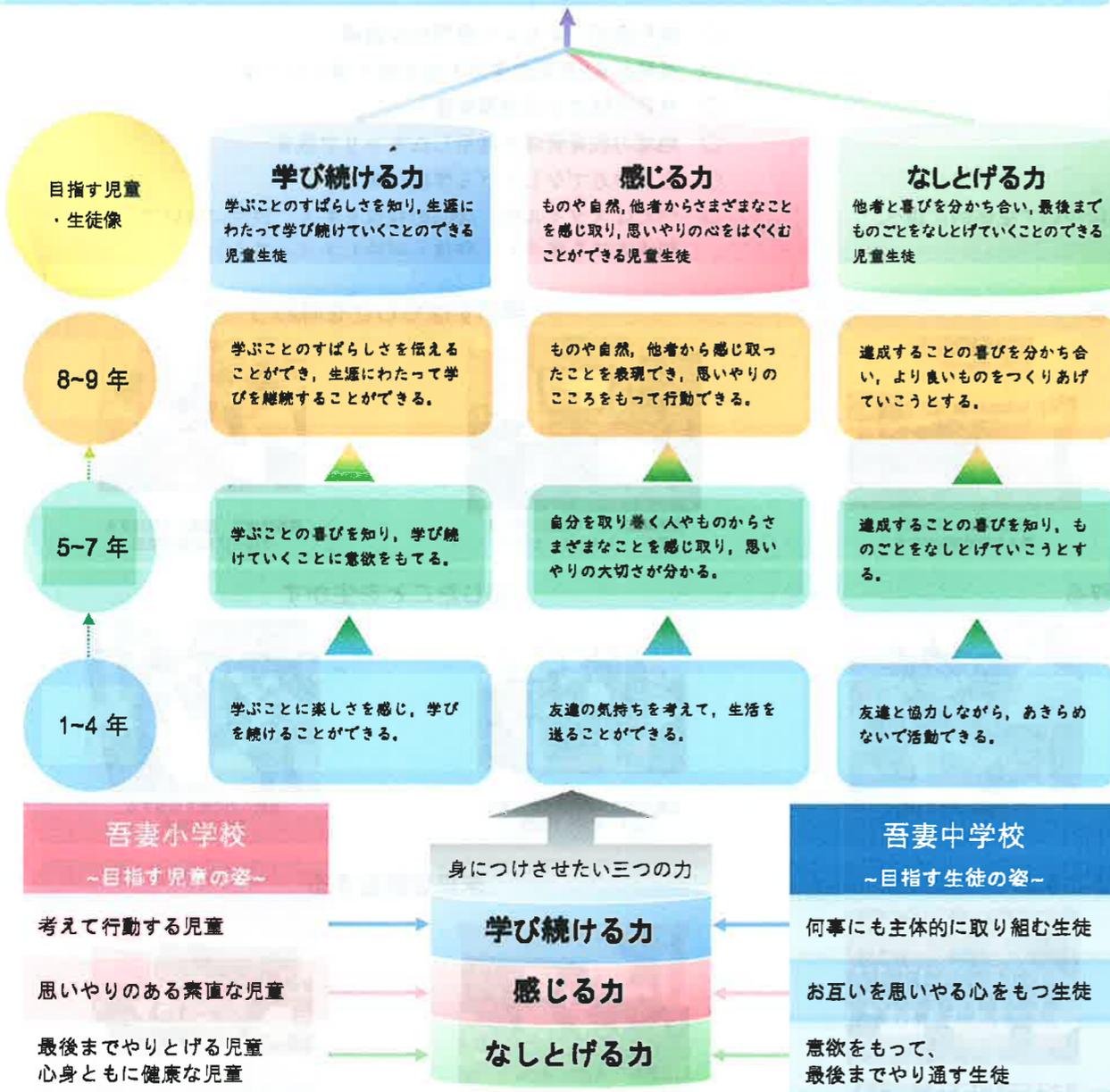
# 吾妻学園の進める小中一貫教育

つくば市学校教育の目標

みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園  
(自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校)

吾妻学園の教育目標

未来に向かい、たくましく生きる児童生徒の育成



2024年度



# 吾妻学園要覧

## 吾妻小学校



校訓

創造 健康 協力

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2丁目16番地  
TEL: 029-851-7101, Fax: 029-851-2362  
E-mail: azue01@tkb.ed.jp  
Web サイト: <https://www.tsukuba-school.jp/azue/>

学級数: 28 (内特支5)  
児童数: 745  
教職員数: 48



## 吾妻中学校



校訓

気力 実践 愛情

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1丁目9番地1  
TEL: 029-852-7751, Fax: 029-851-2579  
E-mail: azuj01@tkb.ed.jp  
Web サイト: <https://www.tsukuba-school.jp/azuj/>

学級数: 11 (内特支2)  
児童数: 274  
教職員数: 25



# 吾妻学園の実践教育

## 家庭

(保育園・幼稚園)  
自立感を養う

## 1~4年生

自発性・活動性を身に付ける

## 5~7年生

人から認められる行動をとれる

## 8~9年生

自主性・自立性を身に付ける

## 実社会

(高校・大学・専門学校)  
アイデンティティを確立する

### 次世代型 AZUMA プランの実践 (すべての教育活動を通して 21 世紀に生きる「つくば次世代型スキル」を身に付ける)

#### 主体的・対話的で深い学びの実現

~友達の考えを大切にしながら進める学習~

- 学級担任・一部教科担任制によるきめ細かな指導
- 基本的な生活習慣や学習習慣の確立
- 仲間と楽しみながら学ぶ喜びの習得
- ICT教育・外国語教育・理数教育の充実
- ◎ つくばスタイル科: 体験的学習で課題に気づき、自分なりの課題をもつ

#### 小学校から中学校へのスムーズな移行

~友達と意見を交換しながら進める学習~

- ICT教育・外国語教育・理数教育の充実
- 教科担任制による専門的な指導
- 発達課題や習熟度に対応した基礎学力の定着
- 異学年交流による学習サポート
- 地域の教育資源を活用したキャリア教育
- ◎ つくばスタイル科: SDGsの視点を持ち、課題について主体的に調べ、情報を集め表現する

#### 社会で自立して生きていく基礎作り

~よりよいものを求め、友達と力を合わせる学習~

- 教科担任によるより専門的な指導
- 義務教育9年間の学力と社会性を身に付ける
- 自己を確立する発展学習
- 地域の教育資源を活用したキャリア教育
- 自らの力でなしとげる学校行事
- ◎ つくばスタイル科: SDGsの視点を持ち、課題について解決方法を模索し、発信し、解決しようとする

#### 学び続ける力

##### 学ぶ楽しさを知る



自然に触れ、体験することで、学ぶ楽しさに触れる



友達と協働し新たな発見をしたり、考えを深めたりするグループ学習

##### 学ぶ喜びを感じる



探究した学習内容を、発表しみんなと共有する場



生徒の興味・関心を高める地域施設の利用

##### 学ぶすばらしさを味わう



相手意識をもって自分の考えを伝えるプレゼンテーション



言語活用・協働力を育成するグループでの意見交換

#### 感じる力

##### 友達の気持ちに気づく



異学年で交流し互いを理解し、社会力を高める、さわやか活動



自分の考えを伝え、友達の考えを聴き、議論する道徳の授業

##### 人やものから感じ取る



地域人材の支援のもと、ホテルの生原に触れるホテルまつり



小中交流あずまる活動

##### 感じたことを生かす



児童生徒の人間関係を醸成するピア・サポート活動



進級への不安を解消する異学年交流会

#### なしとげる力

##### あきらめないで活動する



友達や地域の人たちとハーモニーを奏でるドレミファンタジー



みんなで心をつなげて動きを合わせる表現運動

##### ものごとを達成させようとする



各団で優勝目指して力を尽くす運動会



クラスで力を合わせて最高の歌声を響かせる紫苑祭合唱の部

##### 未来を創造する



働くことについての話を聞き、将来の進路選択を考える「ようこそ先輩」



将来の自立に向けたキャリア教育(クエストエデュケーション)

吾妻学園教育目標： 未来に向かいたくましく生きる児童生徒の育成

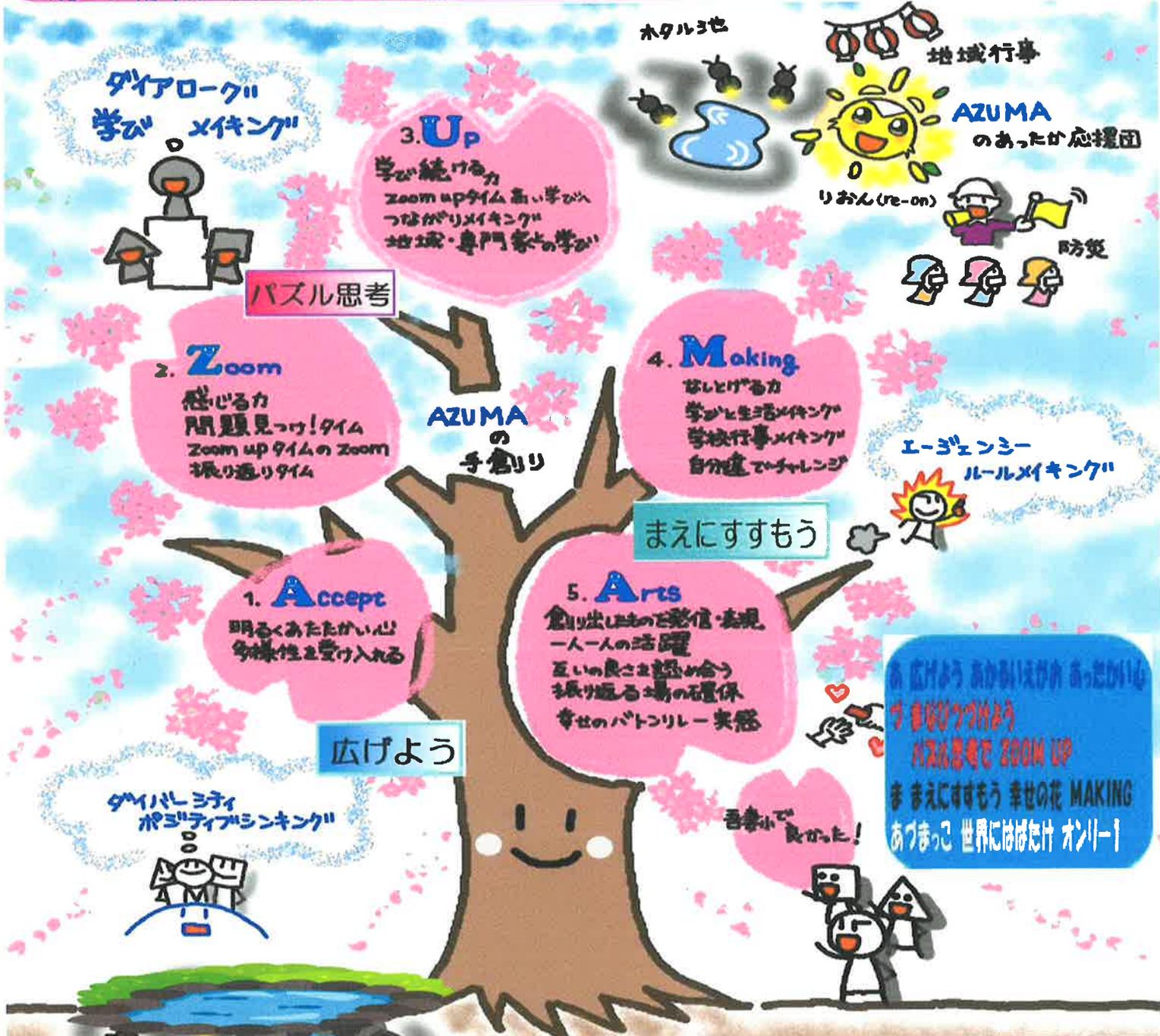
- 本県教育の目標
- ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性を身につかう
  - じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
  - 郷土を愛し協力しあう心を育てる

吾妻学園の目指す児童・生徒像		
1 生涯にわたって学びつづけていくことのできる児童・生徒		
2 思いやりの心を育むことができる児童・生徒		
3 最後までものごとをなすとげていくことのできる児童・生徒		
1～4年	5～7年	8～9年(青き理性)
学ぶことが楽しい 友達の気持ちを考える あきらめず活動できる	学び続ける意欲をもてる 思いやりの大切さがわかる 創り上げる喜びを知る	生涯に渡り学びを継続する 思いやりの心で行動できる より良いものを創り上げる

つくば市の目指す学園・学校像

みんなが幸せを実感できる学園・学校  
(自己実現できる学校  
・みんなで支え合い、  
みんなが生き生きした学校)

本校経営目標 児童も教職員も自分の良さを生かして活躍できる学校づくりから地域AZUMAのクリエイターへ  
研究テーマ: 子供たち自身による幸せな学校メイキング～ウェルビーイングノートとAZUMAプランニングの提案  
R6～R10 茨城県特色ある教育活動パイロット校  
R6 つくば市ルールメイキングモデル校(フレンドシップ校 二の宮小 松代小 吾妻小)



はなみずき教職員 組織目標

- 1 児童一人一人が良さを生かし、互いの自己決定を支え合い創り出すことを楽しむ教育活動の実現
- 2 教職員一人一人が良さを学校づくりに生かし、誰一人取り残さない働きがいあるワンチームAZUMAの実現



# 令和6年度 吾妻学園つくば市立吾妻中学校グランドデザイン

**茨城県学校教育目標**

- ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう
- しようぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

**重点**

知りたい！をつなげる**探究的な学び**  
児童生徒が安心して学べる**魅力ある学校・学級づくり**

**学校教育目標**

**「未来に向かい、たくましく生きる生徒の育成」**  
～地域に誇れる、地域が誇る学校の実現～

**つくば市がめざす学園・学校像**

「みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園」  
自己実現できる学校  
みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校

**子供の主体性を「基本は自己決定」**  
教えから学びへ  
管理から自己決定へ  
認知能力の偏重から非認知能力の再確認へ

**吾妻学園のめざす児童・生徒像**

- 生涯にわたって学び続けていくことができる児童生徒
- 思いやりの心を育むことができる児童生徒
- 最後までものをなしとげていくことのできる児童生徒

1～4年	5～7年	8～9年
学ぶことが楽しい	学び続ける意欲をもてる	生涯にわたり学びを継続する
友達の気持ちを考える	思いやりの大切さがわかる	思いやりの心で行動できる
あきらめず活動できる	創り上げる喜びを知る	より良いものを創り上げる

**吾妻中学校めざす生徒の姿**

- 何事にも主体的に取り組む生徒（学び続ける力）
- お互いを思いやる心をもつ生徒（感じる力）
- 意欲をもって、最後までやり通す生徒（なしとげる力）

**めざす教師像**

- 自ら学び、自分の良さを発揮する意欲的な教師
- 生徒に寄り添い、ひとりひとりを大切にできる教師
- 効率的な働き方ができ、働きがいをもって教育活動をすすめる教師
- 協働し支え合いながら、共に高め合える教師集団

**組織目標**

- 探究的な学びの実践による「学び続ける力」の育成
- 生徒が主体となり、創り上げる活動による「感じる力」「なしとげる力」の育成

**研究テーマ**

「探究学習」の実現に向けた授業デザイン  
～対話を軸にした校内研修の充実～

**生徒会スローガン**



- 交差された糸
  - ・糸は縦方向と横方向に交差させてきれいな布を織る
  - 縦の学年や、横のクラスでの絡み合いで、ひとりひとりが協力し合って過ごせる学校
- 「糸」の入った四つの漢字
  - ・より良い人間関係を築き、さらにステップアップできる学校

「**絆**」学校全体の団結力を高める  
「**継**」伝統を継ぐ  
「**繫**」よりよいものへ繋ぐ  
「**縁**」人との関りを大切にする

## 教育活動の重点

**「学び続ける力」の育成**

～探究的な学びの実践に向けて～

- 主体的・対話的な学び
  - ・学び始めに「問い」が生まれる導入
  - ・学び方の工夫（自ら学び方を考える）
  - ・相手意識をもって聴き、分かりやすく伝え合う場の充実
  - ・協働的な学びによる考えの広がり
- 深い学び
  - ・付けたい力、ゴールの姿の共有
  - ・教師の「問い」による思考の深まり
  - ・ICT機器、一人一台端末の有効活用
- 多様性への配慮
  - ・個に応じた支援＝習熟度別指導、T・T
  - ・合理的配慮、日本語指導

**「感じる力」の育成**

～体感し、共感し、感動する学校生活～

- 仲間と安心して生活できる学校
  - ・ピアサポート活動、代表委員主体のリオンタイム
  - ・自己決定の場、ルールメイキング
- 多様性・特性の尊重
  - ・違いを認め尊重し合える学年・学級
  - ・多文化共生のための受容と理解
  - ・マイノリティの正しい理解
- 人間力の育成
  - ・相手意識をもった言動
  - ・自分を語り、「考え、議論する」道徳

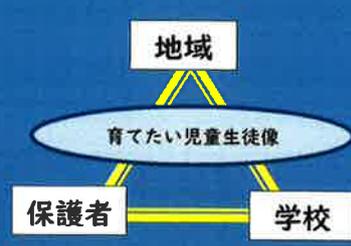
**「なしとげる力」の育成**

～「生徒が主役」となる学校～

- 生徒が主体となる特別活動
  - ・学級が豊かになるための係活動
  - ・実行委員の柔軟な編成
- 「声」を反映する生徒会活動
  - ・生徒主体の運営
  - ・生徒による創造的な行事づくり
- 学びの連続性がある小中一貫教育
  - ・9年間の系統性を踏まえた教育活動
  - ゴールの姿（9年生）をめざして
  - ・吾妻小との交流＝「あづまる活動」

**吾妻学園コミュニティ・スクールの強みを生かす体験的学習活動の展開**

- 地域に誇れる、地域が誇る学校づくり
  - ・持続しやすい協働体制の構築と推進
  - ・吾妻地区の教育資源を生かした教育課程
  - ◆ コミュニティ・スクール協議会 5月・11月・2月
  - ◆ 地域と協働した防災安全教育…防災キャンプ
  - ◆ 体験的学習活動の展開…吾妻まつりへの参画
  - ◆ 筑波大学・研究機関との連携…ゲストティーチャー
  - ◆ 保護者との連携…学習サポーターや部活動見守り
  - ◆ 卒業生・地域住民を活用するキャリア学習



まちを持続的に魅力的にしていくためには、

①人と人、コトとコト  
をつなげる調整機能  
coordination

連携

②まちなかでコトを創  
る実行する機能  
player

## 官民連携でエリアマネジメントをしっかりとやる

つくば市、関彰商事、沼尻産業、LIGHTzが出資して2021年4月1日に設立

## “つくばまちなかデザイン株式会社”

Tsukuba Machinaka Design

つくばならではの体験を創り、まちに新たな価値を生み出すまちづくり会社

※つくば駅周辺の50社で組織した「つくばセンター地区活性化協議会」の事務局も担う

1

## つくばを魅力的にする“つくばまちなかデザイン”



つくばならではの体験を創り、  
まちに新たな価値を生み出すまちづくり会社



2



## ランタンアートについて



### 地域と一緒に作り上げるランタンアート

- ・2009年から開始し、冬の風物詩に
- ・昨年度は総数約6,000個、過去最大8,000個のランタン

#### ◆特徴

##### ○地域の企業と連携して運営

駅周辺の企業がボランティアとして運営に参画

##### ○地域の小中学校と連携して作品を制作

市内の小中学校の児童生徒が作品を制作

昨年は、吾妻小学校と中学校が連携してデザインを検討



2024年度からはランタンアートとイルミネーションを合わせて新たな形に！！